

やすらかに

小笠原前市長逝去

一月十二日、前南国市長小笠原喜郎氏が死去されました。昭和五十年から平成三年までの四期十六年にわたり、南国市長を務められた小笠原氏。財政再建に力を注ぐとともに、空港拡張や道路網の整備、教育施設の充実に尽力され、その足跡はこれからの南国市の発展に必ずやつながっていることではしょう。

一月十八日、高野寺での告別式には、前市長の交友を物語るように、全国から多数の弔問客が訪れ最後の別れを惜しみました。

ここに小笠原氏の死をしのぶとともに、御霊のご冥福をお祈りします。



- 故小笠原喜郎氏の足跡
- 明治四十四年七月二十五日、香美郡田村(現南国市田村)で生まれる。
- 昭和九年三月、神戸商業大学卒業
 - 昭和二十一年十二月、内閣事務官となり、経済安定本部に勤務
 - 昭和二十九年七月、防衛庁経理局監査課長
 - 昭和三十六年一月、防衛庁調達実施本部副本部長
 - 昭和三十九年三月、伊藤忠商事顧問
 - 昭和五十年十一月、南国市長に当選
 - 平成三年十一月、退任
 - 平成四年一月、永眠

ありし日の前市長



選挙事務所で初当選を祝う (昭和50年11月)

市制30周年記念行事 土佐日記舟出まつりで 紀貫之に扮する (平成元年10月)

黒潮博覧会場で (昭和59年3月)

市政発展に一身をささげた人

南国市長 大町行治

生ある者は必ず滅するとは申せ、私も市民一同いまだに信じられない気持ちであります。必ず全快されるものと信じ、一日も早く退院されることを心から祈り、その日をお待ちしたのであります。ご本人も一心に療養に努められ、退院を期しておられたと思います。手を尽くされた医師団はもとより、ご家族、近親の皆様が昼夜わかれぬ看護のかわなく不帰の客となられたことはただ無常というほかありません。

思えば、前市長は田村の地に生まれ四国山脈を見つめて生きた、地勢さながらの気骨隆々の人でありました。特に感銘しておりますことは、慈愛に満ちた温容をもち情熱と一貫した正義感をもって終始されたことでもあります。

それゆえに、市長に就任されてから沈滞した市政は明るく各行政に改善を加えられ

健全財政の基盤を付けられたのであります。市政の発展に一身をささげた近代的田園文化都市の建設を夢に描きながら、いろいろの障害を乗り越え、十六年間力強く歩まれながら、その成果をみることなく急逝されたことは誠に残念なことであります。

そのお元気なお姿に再び接することができず思わざる永別の日を迎えるに至りました。今はただただ、前市長のご遺志を体してひたすら南国市の発展のために一層努力することを誓い申し上げます。

終わりに、地方自治に貢献された業績にたいし、正五位勲四等旭日小綬章を受けられることが決まりましたことをご報告するとともに、前市長の偉大なご遺功を市民皆様とともにたたえ、御霊の安らかなご昇天をお祈りいたし、追悼の言葉といたします。

前市長の思い出を語る

考える村の理事長で、前市長が兄事した



初当選したおり、市の職員への訓示が今も心に残っています。自慢話を好まぬ、また人に媚びることを好まぬ高潔な性格のためか、助役として補佐するのに苦勞することもありました。

私利私欲から遠い、故郷につくすことだけを考えた清潔な人でした。お酒の席にもよ

入交好保さん

少年の頃から秀才でした。親交が始まったのは、故人の中央官庁時代で、物部川治水のため、ダム建設に尽力して暮らしてからで、その頃の思い出が特に印象に残っています。

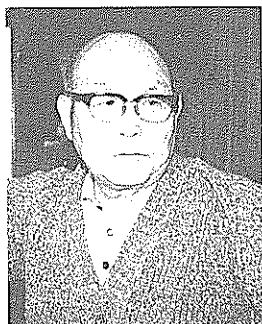
それが縁で、市長選への出

一期目から十二年間、右腕として支えた元助役の

く二縮しましたが、乱れることなくいつも紳士然としていたのをなつかしく思い出します。

亡くなる数日前に見舞ったのがお別れになりました。

吉本太志男さん



てない言葉は決して口にしてはいけないなどと、とても頑固な人でしたが、茶目けたっぷりなところもあり、得意の小咄がよく笑わしてくれました。

自分にも他人にも正直であることが、大切であることを身を持って教えていただきました。

高橋良幸さん

これからは時間も出来たので、好きな相撲を見に行ったりして大いに楽しんでもらいたいと思っていたのに...

地位や肩書に関係なく、一生懸命生活している人が好きだと、会にはいつも気安く出てきてくれました。責任のも